

介護予防・日常生活支援総合事業の さらなる推進について

(教育民生常任委員会・所管事務調査報告)

令和8年3月

高松市議会

高松市議会では、毎年度、各常任委員会ごとに、委員会の所管事項のうちからテーマを設定し、閉会中継続調査（所管事務調査）を行っております。

そこで、教育民生常任委員会としては、令和7年度の調査テーマを「介護予防・日常生活支援総合事業のさらなる推進について」に決定し、鋭意、調査検討を重ねるとともに、香川大学生との意見交換会、及び2回にわたる高松第一高等学校生徒との意見交換会、及び高松市議会まちづくり対話会での意見等を踏まえ、このたび委員会として調査結果を取りまとめたので、以下、報告いたします。

1 現状及びテーマ選定の理由について

団塊ジュニア世代が65歳を迎える2040年に、本市における高齢化率は33.5%にまで上昇することが見込まれており、要介護認定者数の増加や介護人材不足、介護給付費の増加による財政負担が課題となっているところであります。

今後、ますます介護ニーズの高まりが予想される中、必要なサービスを維持・継続していくためにも、早期に施策の方向性を検討し、対策する必要があるとして、令和7年6月23日の委員会で所管事務調査テーマに選定しました。

2 委員会等の開催状況及び活動内容について

(1) 教育民生常任委員会

① 令和7年8月1日 当局からの現状等の説明・質疑応答

〔当局の説明概要〕

本市では平成28年度から総合事業を実施しており、高齢者が住み慣れた地域で希望を持って、自分らしく安心して暮らし続けられる地域共生社

会の実現を目指して、健康づくりや介護予防に取り組んでいるところである。今後、さらなる高齢化の進展に伴う要介護認定者数の増加や、一般介護予防事業の新規参加者の伸び悩み等が懸念されることから、フレイルの認知度向上やフレイルサイクルを断ち切る取組など、高齢者の多様なニーズに対応できるサービスを創出し、総合事業の充実化を図る必要がある。

- ① 令和7年 9月24日 論点整理・質疑応答・先進地視察の候補地及び高松市議会まちづくり対話会の相手方についての意見交換
- ② 令和8年 2月 2日 先進地視察後の委員間討議
- ③ 令和8年 2月20日 取りまとめ案の確認

(2) 視 察

令和8年1月19日・20日 先進地視察

○東京都八王子市・千葉県柏市

- ・介護、支援が必要になる前の高齢者への取組について
- ・支援を受けている高齢者が自立した生活を送れるようにする取組について
- ・担い手の確保について 等



19日 八王子市



20日 柏市

(3) 意見交換会

- ① 高松第一高等学校生徒との意見交換会
令和7年 9月29日・10月27日
- ② 香川大学生との意見交換会
令和7年 10月20日
- ③ 高松市議会まちづくり対話会
令和8年 1月30日

3 委員会としての提言内容について

〔令和8年3月2日の委員長報告（閉会中継続調査終了）〕

(1) 介護・支援が必要になる前の高齢者への取組について

- ① 要介護・要支援の認定を受けていない75歳以上の方を対象に、基本チェックリストを送付するなど、フレイル予備軍の早期把握に努めること。
- ② 支援や介護の必要がない高齢者にとっても相談しやすい、身近な相談体制の充実に努めること。
- ③ 商業施設やスーパー等の生活動線上で測定会や講座等を開催するなど、無関心の高齢者に届くようなアプローチを工夫し、日常的に健康を意識できる環境整備を図ること。
- ④ 高齢者に介護予防の取組を促すためには、家族からの働きかけが効果的であり、また、その家族も老いに関する自然な学びとなることから、高齢者本人とともに家族へのアプローチも検討すること。
- ⑤ 介護予防につながるような事業を行っている民間事業者との連携による有効な支援策を検討すること。

(2) 支援を受けている高齢者が自立した生活を送れるようにする取組について

- ① 個々の状況に応じた効果的なサービスを提供するため、多職種連携の強化を検討すること。
- ② サービスの利用によって生活機能が改善した高齢者が、自立して地域の通いの場や元の生活に戻っていけるような好循環を生み出すため、本人が意欲を持って取り組めるような仕組みづくりや効果の見える化に努めること。

(3) 担い手の確保について

- ① 高齢者自身も担い手になれることや担い手としての参加が自らの介護予防・健康増進にも寄与することについて、周知啓発に努めること。
- ② ボランティアへの参加のハードルを下げることや、多様な層が関わりやすい担い手確保の仕組みを検討すること。